

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0191500115), 法人名 (有限会社 ハマダコーポレーション), 事業所名 (グループホーム おもひで・桜(1階ユニット)), 所在地 (北海道茅部郡森町字森川町223-21), 自己評価作成日 (平成31年3月4日), 評価結果市町村受理日 (平成31年4月11日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

和風インテリアに工夫し、昔懐かしい雰囲気を残し、家庭的な環境を壊さないようにしている。また、日頃から掃除を行い、清潔感のある環境を作っている。暖かい時期は外出の機会をもち、季節を感じてもらえるよう季節ごとの行事や食事作りにも力を入れている。また、御家族様にも行事に参加して頂いたり、面会時に生活の様子等を話したり、入居者様・御家族様・職員と深い繋がりが持てるよう日頃から努めている。森町認知症の人と共に歩む会の研修や行事にも参加させて頂き、地域の方との交流の機会を作っている。職員は、研修や勉強会に積極的に参加し、知識や技術、ケアの質の向上に努めている。また、地域包括支援会議にも参加し、他の施設との情報交換やネットワーク作りもしている。毎年、消防署に依頼し、救急蘇生法の研修を行い、全職員が救急時に落ち着いて対応できるようにしている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action\_kouhyou\_detail\_2018\_02\_2\_kani=true&JigyosvoCd=0191500115-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成31年3月25日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は国道5号線から微笑み桜通りを400メートル程坂道を下った静かな住宅街に開設して10年を迎える、木造2階建ての和風モダンな建物で、周囲の環境に溶け込んだ落ち着いた佇まいである。玄関アプローチには「こぶしの木」や「ぶどう棚」があり、季節毎に花や実を愛で心穏やかに日々を送っている。また、目を転じると大迫力の駒ヶ岳と内浦湾の青さが目に飛び込んでくる。この地に住む人は駒ヶ岳の残雪の形を見て、農作業や漁の準備をしたり、山にかかる雲の様子で、天気を予測するなど、生活から切り離すことの出来ない風景である。日常的な散歩コースの公園や通りには幾種類もの桜が植えられ、次々に咲き誇る桜の花は長い期間人々の目を楽ませさせてくれる。事業所内は神棚や障子、引き戸などの建具から趣のある和筆筒と鎌倉彫りの小物に至るまで和風インテリアにこだわり、余計なものを省き品よく纏め、日本家屋の原風景を醸し出す温かい環境の中で、職員は利用者一人ひとりが地域の中で普通に暮らせるよう、個別ケアを大切に支援に取り組んでいる。子育て中の職員も働きやすい環境が整えられており、離職率が低く、開設当時から職員が多数おり、利用者や家族と馴染みの関係と信頼関係がしっかりと築かれて、今後更なる向上が期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service outcomes.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様の人格を尊重し、その人らしさを支え、この地域で「おもいで」を作っていく理念を掲げ、毎日思いを一つにし、実践に繋がっている。	毎年全職員で話し合い、事業所理念を踏まえたユニット目標と個人目標を定めて実践し、年2回自己評価を行い年度末には管理者と面談をして振り返り、職員一人ひとりが理念を更に意識し理解を深め日々のケアサービスに繋がっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に所属し、回覧板を一緒に回したりしている。町内ボランティアの来訪もあり、地域との交流を図っているが、交流不足だと感じている。	日常的に近所の方と親しく挨拶を交わし、管理者は「認知症の人と共に歩む会」の研修会で何度も講師を務め、地域の担い手として期待されている。また、敬老会など行事の時はフラダンスや尺八演奏などのボランティアを積極的に受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症に悩む方々へ、認知症介護のアドバイスをしたり、相談も随時受け付けている。依頼があった時は、講話もしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見や要望をお聞きし、サービスの向上を目的とした意見交換を行っている。会議での意見は職員間でも共有しサービスの向上・改善に努めている。また、議事録は玄関にも置き、誰でも閲覧できるようにしている。	役場や包括支援センター、町内会代表、認知症の人と共に歩む会、消防署の方々が出席して定期的開催し、行事・研修会報告、利用者の日常生活の様子、ヒヤリハット、防災などについて意見交換を行っているが、家族の出席が見られない。	家族や事業所に関わる様々な立場の方々が毎回会議に出席してもらえるような働きかけを期待したい。議事録は会議に出席できない家族にも、会議の内容がもっと伝わる纏め方を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の介護保険係や地域包括支援センターに相談し、アドバイスをもらったり、情報を得る等、連携とり協力体制を築いている。また、地域包括ケア会議にも参加している。	3ヶ月毎に地域包括ケア会議に出席をして、事例検討をしたり空き室の情報提供などを行って、連携を図り、協力関係を築いている。ケースワーカーの訪問も定期的に行われている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングやケアカンファレンスの際に、転倒等のリスクに対して介護上の工夫を話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。3か月毎に身体拘束廃止委員会を行っている。委員会が中心となり、勉強会も予定している	身体拘束廃止マニュアルを作成して、職員がいつでも閲覧できる場所に保管している。外部研修会に出席した職員は報告会をして全職員で共有し、拘束に繋がらないような支援を行っている。今後は身体拘束廃止委員会が中心となって定期的に勉強会を行い、更に理解を深めて行く意向である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が中心となり、言葉使いやケアの状況により指導したり、全員で討議している。また、入居者様の身体及び精神状態の細かい変化に気づけるよう日々観察している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている方はいないが、随時対応できる体制を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分に時間をかけて余裕のある時間で行い、サービス内容等説明し、その都度、疑問点等ないか確認している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時は職員から話しかけ、日頃の生活の様子等話し、気軽に言ってくれる雰囲気作りをしている。また、信頼関係の構築に努め、意見や要望をお聞きし運営に反映させている。重要事項説明書には、受付窓口・責任者の電話番号、第三者機関の相談窓口も提示している	家族からは来訪時や電話で意見や要望を聴き、内容に応じて代表や管理者、全職員で検討して運営に反映している。また、「桜のたより」を年2回作成し、一人ひとりの誕生日や行事の様子を載せ、管理者直筆の手紙を添えて家族に送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関しての意見や提案は管理者がまとめて伝えている。	管理者は日頃からコミュニケーションを密に図り、意見や提案を丁寧に聴き、表出した意見は代表と相談をして、運営やケアに反映できるように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は管理者や職員の努力・勤務状況を把握し、職場環境を整備しようと努力している。また、気分転換できるよう、連休や希望休を取ってもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に合わせた研修に参加してもらい、受講後は報告書を提出してもらい、他職員と共有し意識・技術の向上に努めている。また、国家資格受験の応援にも努め、働きながら介護福祉士を受験できる環境を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流や勉強会等で意見交換や交流する機会があり、サービスの向上に繋がっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居が決まったら、出来るだけ来訪して頂き、居室等全体の雰囲気を見て貰っている。また、管理者が自宅や施設を事前に訪問し、御家族やご本人と話し合う機会を作り入居前に不安が解消できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居が決まったら、連絡を取り合い、御本人と一緒に来訪して貰ったり、自宅訪問に立ち会ってもらい、不安や要望等話し合う機会を設け、安心できるよう信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者、介護支援専門員は、御本人・御家族に事前に情報収集をし、他サービス事業者や医療機関からも情報収集を得て、よりよいサービスを提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人様の今出来ることを大切に、生活の中で活かしていけるよう一緒に家事をしたり、食事や外出等、共に過ごす家族のような存在になれるよう努めている。また、一方的な支援にならないよう相手の想いや立場を大切にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や来訪時に入居者様の様子を伝え、御家族様からの要望もお聞きし、時には入居者様に安心して貰えるようお話しして頂く等、職員と共に入居者様を支えて頂ける環境を築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族様以外の知人の面会もあり、馴染みの方との関係を継続できるよう支援している。入居時は馴染みの家具等あれば持ってきて頂いている。	馴染みのお菓子屋を訪問した時や、友人、知人が来た時は思い出話をして過ごしている。ドライブを兼ねて育った家を見に行き、ついでに「サケの遡上」を見るなど、懐かしい風景や時節を忘れてしまわないように支援している。また、元旦には皆でお屠蘇をいただき息災を願っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の相互関係に配慮し、性格や習慣等、細かく把握し、良い関係作りが出来るよう支援している。トラブル発生時は、早急に原因を把握し助言・仲介に入り、双方が不快な思いをしないよう関わっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居し、入院となった方のお見舞いに行ったり、御家族様と今後のことを話しあったり、相談受付等、関係を断ち切らず保っている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	仕草や表情・行動等、様々な方向から思いをくみ取り、困難な方には、御家族様から希望や要望、意見をお聞きし、その方の立場になって検討し支援している。	日頃の関わりの中や独り言、利用者同士の会話からも希望や意向を把握し、利用者が不安になった時は「最期までここに居たい」としっかり意思表示する方もおり、情報は全職員で共有し、思いが叶う様に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、御本人・御家族様に生活歴等を聞き、情報収集をし大きく生活が変化しないよう、個々の暮らしを大切にしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の人格を尊重し、出来る事、出来ない事を把握できるよう観察、記録に残し、情報の共有と必要な事を支援し、現状の能力を総合的に判断しケアしている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の生活状況を申し送りし、日誌や記録に記入している。入居者様、御家族様の意見や要望をお聞きしカンファレンスを開き、現状にあった計画を作成している。状況変化時は計画の見直しをしている。	利用者担当職員の評価を基に全職員で検討し、ニーズに合った介護計画を作成している。更新は6ヶ月を目安にしているが、状態に変化があった時は臨機応変に計画を見直している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の経過記録や日誌に日々の生活の様子もを記入しケアプラン項目の記入もされているので、実践や見直しに活かし、職員間で情報を共有している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様や御家族様の希望、かかりつけ医への受診、買い物送迎等、柔軟な対応をしている。様々なニーズに対し、職員間で話し合い、サービスの多機能化に取り組んでいる。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事等で外出する際は事前に連絡している。仏壇がある方は毎月住職が来てくださっている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人、御家族様が希望する、かかりつけ医がいる場合は継続受診が可能。医療連携している主治医の往診も行っている為、24時間診てもらえる体制も整えている。	かかりつけ医の継続や往診は本人と家族の希望や意向を大切にしている。利用者の受診日に合わせて主治医の往診があり、専門科への受診は職員が同行し、結果は都度家族に報告している。訪問看護師による健康管理は月1回行われている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携している病院の訪問看護師へ報告したり、月1回の訪問看護日に報告したりし、重度化にならないよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する際は、職員も付き添い、情報提供し今後の方針等、医師や他職員と相談している。お見舞いに行った際等、今後の方向性を相談員と話し合う等、積極的に関係作りをしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携している主治医とは、24時間体制で連絡・相談ができる。終末期の際は、細かく指示をもらい、出来る事・出来ない事を明確にし御家族様に文書による説明・同意を得ている。また、職員間でも方針・情報を共有している。	終末期ケア・看取り介護について契約時に本人と家族に十分説明をして同意を得ているが、状態や状況が変化する度に医師、事業所、家族が話し合い、随時意思確認を行って合意を得ている。本年度も看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急蘇生法の講習を職員全員受講している。また、AED設置、緊急マニュアル作成しており、必要に応じて主治医からアドバイスをもらっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防立会いで避難訓練を予定している。スプリンクラー設置している。災害別のマニュアルは作成予定。	年2回、昼夜を想定した火災避難訓練を地域の協力を得ながら実施している。地震や駒ヶ岳の噴火、停電なども検討し、保存食や照明用ランタンを用意している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様を尊重し、言葉遣いや態度に注意している。排泄は職員間で暗号で報告し合いプライバシーに配慮している。	呼び方は性格や生活歴を基に本人の心地良い声掛けに決めており、人格を尊重した接遇に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	状態に合わせた選択肢を選び、入居者様の希望や意見を尊重し自己決定していただける環境と働きかけをし、待つ姿勢を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常の会話や表情・体調等から思いを汲み取り支援している。希望に添えるよう買い物や外食等様々なことに対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の希望に添えるよう季節や気温、好みに配慮しながら、お洒落を楽しんでもらえるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る事を継続していけるよう一緒に調理・片付けを行えるようにしている。季節の食材を取り入れたり、行事に合わせた献立、誕生日には好物を取り入れたりしている。	買い物は職員が行っているが、毎日の献立は利用者の希望を採り入れて、冷蔵庫にある食材や保存食を使って対応している。バイキングや回転ずしなど外食も取り入れている。月1回ビールと好物のおかずで晩酌を楽しむ利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量を記入し、不足時は好物を提供したり、補食やゼリーで補っている。また、咀嚼や嚥下機能の状態に合わせ、摂取しやすい形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、毎食後口腔ケアをしている。個々に合った歯科用品を使い、気分や体調に配慮したケアをしている。口腔内の異常や義歯の不具合は協力医に診てもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄を記録し、個々にあった排泄パターンを把握し、トイレサイン等からもトイレ誘導のタイミングを計り、汚染を少なくし、トイレでの排泄を促している。	日中に布パンツを使用することで、夜もトイレでの排泄が出来るように変化した例がある。パットやおむつなどを使用する時は尿量やサイズ、単価などを家族と一緒に検討し、適切なものを選択して経費軽減にも繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄を記録し、水分摂取や乳製品、オリゴ糖等、マッサージ施行に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	同性介助を希望された場合は同性職員で対応できるよう配慮している。体調にあわせて時間帯で入浴していただいている。	利用者の希望により毎日午後から湯を入れ、1日2名の入浴介助を予定しているが、突然の希望にも臨機応変に対応している。拒否する場合は無理強いることなく、スタッフを替えて声掛けをして、スムーズな入浴に繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠や生活パターンに合わせ、季節、気温にも配慮している。眠れない方は、職員と過ごす等している。昼間は疲労や体調に合わせ休息をとってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬情報を個人ファイルに保管し、服用している薬の副作用や目的をいつでも確認できるようになっている。内服の変更時は職員間で共有し身体状況の変化に留意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物や散歩、家事の手伝いが出来る環境を作り、季節に応じた行事を提供している。好物を差し入れてもらったりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や通院等、個々に合わせた外出支援を、季節ごとの行事を楽しんでいただけるよう、日頃より外へ出かけられるようにしている。	外気浴を大切に考えており、事業所ウッドデッキでお茶を飲んだり、おやつを食べたりしている。桜が咲く時期には日常的に花を愛でながら散歩をするなど外出の機会を多く確保し、また、各月毎に行事担当職員が企画をし、法人の車を使って利用者全員で外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理出来ない方は、金庫でお預かりしている。外出時に出来る方は会計時に職員が付き添い支払いをしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	代筆や電話の受け答え等の支援を行っている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの窓から外を眺めたり、天気の良い日はウッドデッキで日光浴をしたりしている。また、季節に応じて飾りつけをしている。	事業所内のほぼ真ん中にオープンキッチンがあり、見守りや会話をしながら食事の支度をしている。居間兼食堂はたっぷりの陽が入り、温度と湿度も適正に管理され、年1回専門業者による床のクリーニングが行われ、更に日頃の掃除も行き届き清潔が保たれている。玄関の障子から入る光の移ろいで、時の流れを感じながら、ゆったりと暮らしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやイスの配置を個々に合わせ、入居者様同士楽しく会話したり、一人で落ち着いて過ごしたりと思い思いに過ごすことが出来る様にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたベッドや布団、タンス、仏壇等の家具を持ってきていただいたり、写真を飾ったりと居心地よく安心できる居室になるよう配慮している	備え付けのクローゼットに殆どの物が収納できるので、持ち込みは少なく、使い慣れた家具やベット、テレビなどを使いやすく配置し、家族の写真を飾って、一人ひとり個性豊かな部屋づくりをして、ゆったりと暮らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には暖簾や表札を掛け分り易くしている。共有箇所には手すり、トイレには札をかけている。台所では職員と一緒に立ち安全に家事ができる。		